

令和3年 1月 20日	
資 料 提 供	
担 当 課	県立博物館 学芸課
担 当 者	主任学芸員 前田正明
電話番号	073-436-8684

小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるVI』の配布及び、現地学習会「歴史から学ぶ防災2020」の開催について

和歌山県立博物館では、令和2年度文化芸術振興費補助金(地域と共働した博物館創造活動支援事業)を得て、和歌山県立文書館、和歌山県教育庁文化遺産課、歴史資料保全ネット・わかやまと協力しながら、地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業(全体事業名「みんなで和歌山の文化遺産を守り活用する博物館連携事業」)に取り組んできました(別紙1)。

このたび、本事業の調査成果を多くの方々に知っていただくため、下記のとおり小冊子を作成し、配布するとともに、湯浅町と広川町で現地学習会を行うことになりました。

- ①調査成果の一部をわかりやすく解説した、小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるVI』(A5判、15,000部)を作成しました。調査対象地域である2町(湯浅町、広川町)の住民の方に対して、全戸配布(無料)します。また、当館に来館された方で、希望される方にも無料で配布します。なお、小冊子の内容は、和歌山県立博物館のホームページからダウンロードすることもできます。
- ②令和3年2月27日(土)・28日(日)に湯浅町と広川町で、調査成果の一部を報告する現地学習会「歴史から学ぶ防災2020」を開催します。

【添付資料】

- 別紙1(『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要)
- ①小冊子(『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるVI -命と文化遺産とを守るために-【湯浅町・広川町】』)
 - ②チラシ(現地学習会「歴史から学ぶ防災2020 -命と文化遺産とを守る-」)

『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要

[これまでの取り組み]

和歌山県立博物館では、和歌山県立文書館、和歌山県教育庁文化遺産課、歴史資料保全ネット・わかやまの協力を得て、平成26年度から国庫補助金を活用し、那智勝浦町と御坊市(同26年度)、太地町と串本町とすさみ町(同27年度)、印南町と由良町(同28年度)、新宮市と北山村(同29年度)、日高町と白浜町(同30年)で、小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える 一命と文化遺産とを守るために一』I～Vを刊行し、関係する自治体の協力を得て全戸配布しました。同時に、地域住民を対象にした現地学習会「歴史から学ぶ防災」を開催しています。令和元年度は、5年間の調査成果をふまえた、高校生を対象とする冊子『「災害の記憶」を未来に伝える 一和歌山県の高校生の皆さんへ一』を作成し、和歌山県内の高校に通う高校生に配布しました。これまで発行してきた小冊子・冊子は、県立博物館のホームページからダウンロードすることもできます。

[本事業での取り組み]

和歌山県域において、地震津波被害や洪水被害が想定される地域が広範囲に及んでいることを踏まえ、令和2年度は湯浅町と広川町の津波浸水想定地域、洪水想定地域を調査対象地域とし、y湯浅町・湯浅町教育委員会、広川町・広川町教育委員会などの協力を得て、「災害の記憶」の発掘と対象地域に残る文化遺産の所在確認を行います。

本事業の調査成果を地域住民の方々に還元するため、啓発用小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるVI 一命と文化遺産とを守るために一』を作成し、無料で配布するとともに、現地学習会「歴史から学ぶ防災2020」を開催します。

[本事業の調査参加者](五十音順)

木村修二	神戸大学大学院人文学研究科 特命講師
砂川佳子	和歌山県立文書館 文書専門員
玉置将人	和歌山県立文書館 副主査
藤 隆宏	和歌山県立文書館 主査
浜田拓志	歴史資料保全ネット・わかやま会員(奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 客員研究員)
前田正明	和歌山県立博物館 主任学芸員
松下正和	神戸大学地域連携推進室 特命准教授
松原瑞枝	和歌山県教育庁文化遺産課 技師

*この事業は、「令和2年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業」で行っている事業(全体事業名：みんなで和歌山の文化遺産を守り活用する博物館連携事業)のうちの一つの事業です。